

久しぶりの味

『蹴落川道』の写真を撮るために梅雨入り間近の山に入りました。草丈も高くなり、所々で倒れた竹や木々に伸びた蔓が行く手を遮りました。昨年の豪雨で埋め尽くされた砂防ダム。その河原の細い流れの傍に色濃い実をつけた桑の木を見つけました。一粒ずつ黒い実を食べると懐かしい味がします。木の揺れで実がぽとぽと落ちました。今度は黒い実を掌に摘んで口にいれました。砂糖の甘さに慣れ切った口に、昔の程よい甘さが懐かしい思い出とともにいっぱい広がりました。赤い実は予想通りの酸っぱい味がしました。帰り道、自然と『赤とんぼ』の歌が頭の中を駆け回っていました。



6月半ばのもう一つの味はモミジイチゴです。春に白い花をつけたとげのある木イチゴも黄金色の甘い実をつけています。汗をかいた山道の一休みには最適です。ぜひ一口を・・・。

道案内3 『蹴落川道』からパートⅡ(写真を入れて)

『七尾城址資料館』前を流れるのが蹴落川です。道は能越道のあたりで右に折れ蹴落川に沿って続きます。数枚の山田を右に笹藪の道を進みます。ヤダケが増えて平坦になるとその右に砂防ダム工事のため造られた道があります。この付近には石垣も残って



いて、郭址と考えられる平坦な杉林が数段見られます。川筋が本丸周辺からと二股に分かれるあたりで流れを渡し、しばらくすると再び大きな砂防ダムに出ます。土砂が河原いっぱい広がっています。杉林が切れて川底が舗装された流れの左にある道の右にコンクリートブロック塀があり、その昔から



崖崩れが多かったと想像されます。次の杉林に入って抜けると道は行き止まり状態になってしまいますが、その右手の谷に道があり次の杉林へと続きます。

道は川沿いの高台を通っていたと考えられますが今ははっきりしません。多分、自動車道を横切って昔の大門に出たのではと想像しています。そして、この蹴落川の流れは飯田さんの別荘付近へと続いています。

